

放射線内部被ばく健康影響調査（平成 28 年度継続調査）の評価について

区 分	有賀 久哲 委員	板井 一好 委員	稲葉 次郎 委員	佐藤 至 委員	西崎 滋 委員	松田 尚樹 委員	和田 利彦 委員
1 全体評価について	前回の評価（「尿中の放射性セシウムの量は減少しており、預託実効線量も 0.01mSv 未満であることから、放射性セシウムによる健康影響は極めて小さいと考えられる。」）から、特に変更・加筆すべき点はございません。	今年度の調査結果は 8 人全員の調査協力者で預託実効線量 0.01mSv 未満であり、同一調査協力者の平成 25 年から 27 年の預託実効線量も 0.01mSv であったことから、放射性セシウムによる健康影響はきわめて小さいと考えられます。	すでに平成 25 年以降 27 年までの調査において放射性セシウムの体内量およびそれによる実効線量が極めて低いレベルであることが示されているが、28 年継続調査においてもこの事実が確認できた。放射性セシウムによる健康影響は極めて小さいといえる。	平成 24 年度以降 5 年連続して調査対象者全員の預託実効線量が 0.01mSv 未満であることから、内部被曝の健康影響は極めて小さいものと考えられます。	「尿中の放射性セシウムの量は検出限界以下あるいは検出限界をわずかに超える程度であり、預託実効線量も 0.01m S v 未満であることから、放射性セシウムによる健康影響は極めて小さいと考えられる。」	放射性セシウムによる健康影響は無視できるレベルと考えます。	前回と同じ評価でよろしいと考えます。
2 県（行政）に対する助言について (1) 今後の調査方法	これまでのデータを考慮すると、今後の調査は必要ないと考えます。	昨年と同様の理由で今後の調査は必要ないと考えます。	放射性セシウムの尿中レベルおよびその値から導かれる実効線量が極めて低いレベルであることならびにそのレベルで安定していることから、今後は調査を継続する必要はないと考えます。	ほとんどの調査対象者の放射性セシウムが不検出であることに加え、調査希望者が少ないことから、本調査を継続する必要はないものと考えます。	放射性セシウムの内部被ばくによる健康影響は極めて小さいレベルであり、また、参加者も少なくなっている現状から、組織的な調査は終了して良いと考えます。	終了して良いのではないかと考えます。	調査の必要はないと考えます。
(2) 甲状腺超音波検査	甲状腺超音波検査は不要と考えます。	調査の必要はないと考えます。	甲状腺のモニタリングはなされていないが放射性セシウムによる線量レベル等から甲状腺線量は小さいと推定されることから、甲状腺超音波検査は必要ないと考えます。	本県児童の甲状腺被曝線量は極めて少なかったと推定されることから、検査の必要はないものと考えます。	本県の子どもの放射性ヨウ素による内部被ばくは極めて小さいと推定されることから、甲状腺超音波検査の必要はないと考えます。なお、引き続き福島県での検査結果の動向を注視し、甲状腺検査の希望者には援助等の配慮が必要と考えます。	線量的にみて不要だと考えます。	必要ないと考えますが、不安が強く、検査を希望される方は、受診できる配慮が必要と考えます。
(3) その他	福島県の県民健康調査など、今後も情報提供をお願い致します。	昨年と同様ですが、県としてがん発症登録の悉皆性に努力していただきたいと思います。	放射線内部被ばくに対する特段の配慮は必要なく、一般的な保健医療レベルの向上とそのための意識向上に向けた努力が望まれます。（昨年と同じ）	特にありません。	特にありません。	特にありません。	特にありません。

区 分	有賀 久哲 委員	板井 一好 委員	稲葉 次郎 委員	佐藤 至 委員	西崎 滋 委員	松田 尚樹 委員	和田 利彦 委員
3 県民に対する助言について (1) 内部被ばくの防止	特にありません。	特にありません。	放射線被ばく防護を念頭に置いた特段の措置は不必要であると考えます。(昨年と同じ)	野生鳥獣肉は今でも放射性セシウム濃度が高い場合があるので注意しましょう。	昨年度までの指摘事項に付け加えることはありません。	流通しているものはまったく問題ありません。	特にありません。
(2) 外部被ばくの防止	特にありません。	特にありません。	放射線被ばく防護を念頭に置いた特段の措置は不必要であると考えます。(昨年と同じ)	特にありません。	昨年度までの指摘事項に付け加えることはありません。	特に気にするレベルではありません。	特にありません。
(3) その他の助言	岩手県民の健康指標は決して良好とは言えません。放射線以外の疾病リスクにも留意しましょう。	特にありません。	喫煙、過度の飲酒、過食、偏った栄養などを避けて適度な運動をするなど、一般に健康に良いといわれる生活習慣、食習慣を守ることにより留意してください。(昨年と同じ)	人は1年間に1.5 mSv 前後の自然放射線被曝を受けていますが、住んでる場所、生活スタイルや食べ物によって個人差があります。今回の調査で原発事故由来の内部被曝が0.01mSv 未満であることが明らかになりましたが、これは自然放射線被曝の個人差よりもはるかに小さな値です。	特にありません。	放射能のリスクにとらわれることなく、食を含めて健康で規則正しい生活に努めることが一番だと思います(昨年と同じ)	特にありません。
4 その他	特にありません。	特にありません。	放射線内部被ばく健康影響調査の目的は十分に達成されたと考えます。	特にありません。	内部被ばく線量は極微量ですが、検出限界以下にならなくて不安に思われる場合は、その解消のために食事についてアドバイスすることも必要と考えます。	特にありません。良い調査であったと思います。	特にありません。